

「小林がやらかした 17 倍辛い焼肉のタレ」

【2 学期始業式 学校長式辞から】

2 学期が始まりました。1 学期の終業式の頃は、兵庫県のコロナウイルス新規感染者数が 100 人以下であったため、もしかしたら 2 学期の始業式は全校生が体育館に入って実施できるかなと思ったのですが、また放送ですることになりました。

お盆以降は、県内でも感染が一気に拡大し、一日の感染者数が連日 1,000 人を超えるような状況になっています。

自分は大丈夫、感染はしないと根拠のない勝手な判断をしないこと。誰かと話をするときには必ずマスクをつけること。常に自分の体調を確認すること。そのためにも毎朝の検温を習慣にすること。そして少しでも体の調子が悪い時は用心して登校、外出をしないことなど、2 学期の学校生活を始めるにあたり、もう一度一人一人が感染を防ぐためにはどうすることが必要なのかを確認して実行していきましょう。

今日は、夏休み中に読んだ新聞の記事を一つ紹介したいと思います。「唐辛子を誤って投入。小林がやらかした 17 倍辛い焼肉のタレが話題」というのがその記事のタイトルです。読んだ人はいますか。

どんな記事かという、岩手県の醤油を作っている会社で、「ダイナマイトソース」という名前の激辛商品に使うはずだった唐辛子を、社員の小林さんが誤って焼肉のタレを作っている鍋に入れてしまったそうです。計算してみたら、通常の焼き肉のタレの 17 倍の量でした。すぐに失敗に気づいた小林さんは、上司に「どうでしょう…」と相談したそうです。大きな鍋に入ったタレの量は 70ℓ。「とてもお客様に提供できるものではない。廃棄するしかない」と一旦はなったそうですが、でももったいないので、その上司が試しに味見してみたところ「確かに辛いけど、想像していたよりおいしい」ということで、「どうせ失敗作だし、ダメ元で失敗作として出してみようか」と上司が言ってくれたそうです。

その上司は、小林さんが本当に落ち込んで、恐縮しているので、本人の気持ちを紛らわせられたらと思って、いつものノリで「小林がやらかした 17 倍辛い焼肉のタレ」という名前で店頭に並べたそうです。すると、それが話題になって約 600 本のタレは瞬間に完売したそうです。

この醤油会社は社員数 15 名のアットホームな職場で、普段から失敗を怒らずに笑いに変えてくれる職場だったからこそ、失敗が思わぬ好結果を生むことになったと記事は締めくくられていました。

みなさんのクラスは、だれかが「やらかした」時に、怒らずに笑いに変えてくれるあたたかい雰囲気はありますか？今、部活動は休止していますが、皆さんが入っている部活動にはそんなアットホームな雰囲気はありますか？

三木高校は、この醤油会社のように、何か失敗を「やらかした」ことで落ち込んでいる人がいたら、ユーモアで温かく包み込むアットホームな雰囲気の学校であってほしいと思います。

(校長 高橋信之)